



# 使用上の注意

## 取扱上の注意

### クラッチ本体

クラッチはたたいたり、落としたり又は無理な力を加えますと、打傷や変形を生じますので取扱いに注意してください。

### 摩擦面

乾式のクラッチは摩擦面を乾燥状態で使用する必要があります。摩擦面に水や油が付着しないよう取扱ってください。

## 取付上の注意

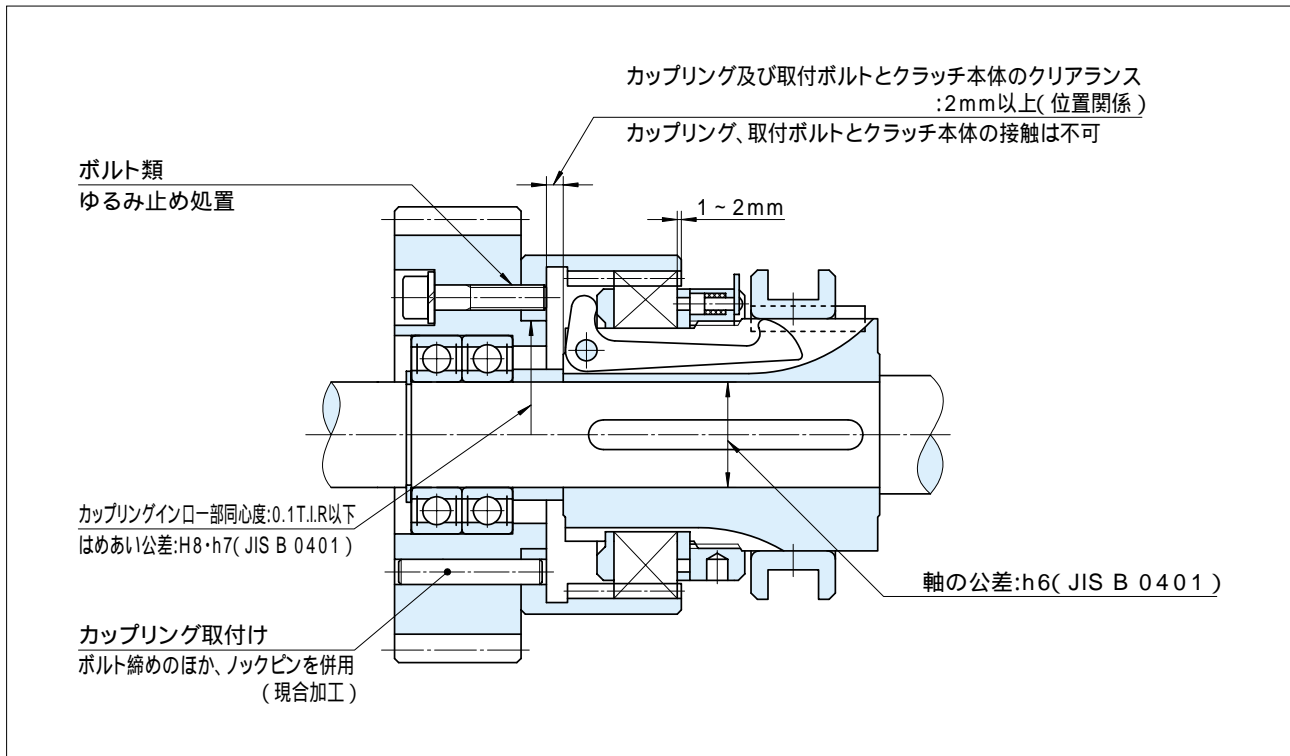


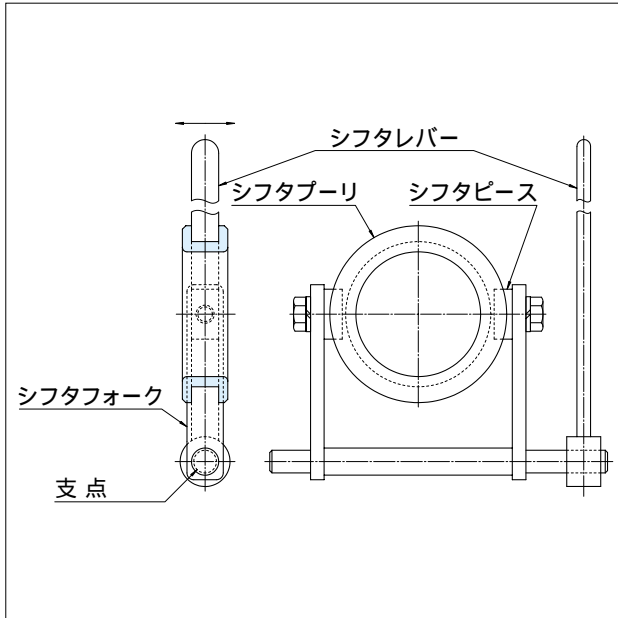
図5 クラッチ本体とカップリングの位置関係

# 操作方法

## レバー操作

図6に示すようにシフトフォークをレバー操作することによりクラッチのシフトプーリを動かします。

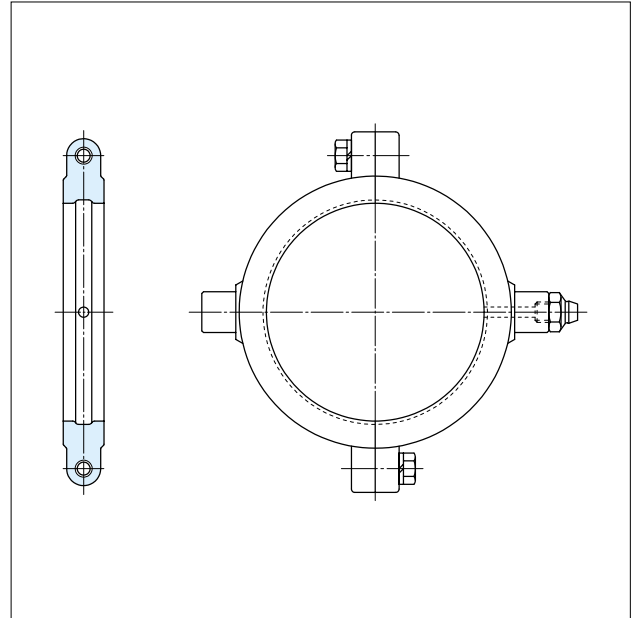
図6



## シフトプーリの潤滑

シフトフォークとシフトプーリの間にシフトピース、又はシフトリングを入れます。乾式の場合は、グリース潤滑をする必要上、リングにして下さい。

図7 シフトリング（乾式用）



## レバー比の設定

人力で操作する場合、操作力が200N程度以下になるようレバー比を決めて下さい。

## ストッパー、ロック装置の設定

シフトフォークには、シフトプーリのストロークに合わせてストッパーを設けて下さい。又、振動やレバーの自重で抜ける恐れがある時は、ロック装置を設けて下さい。

## 押込力の設定

油圧又は空気圧シリンダで操作する場合、押込力のバラツキを考慮し、カタログ記載値の2倍程度で選定して下さい。又、油圧（空気圧）を制御してクッションスタートさせるような場合は、3倍程度で選定して下さい。

## 焼付き防止

シリンダのストロークとシフトプーリのストロークが合わない場合、焼付き防止のため必ずストッパーを設けて下さい。

# 装着例

DS形乾式機械多板クラッチを突合せ軸に使用し、パイロットベアリングによって心出しをした基本例

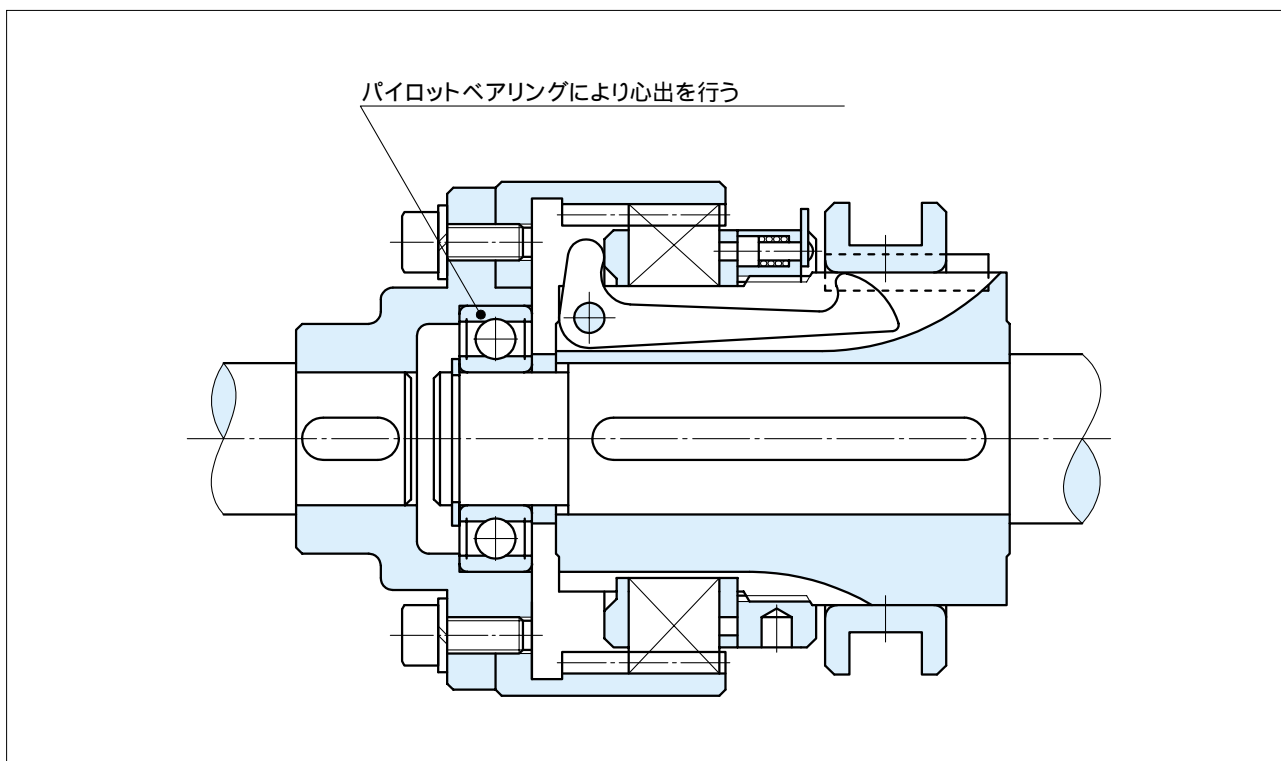


図8